

令和7年度「市区町村におけるがん検診チェックリストの 使用に関する実態調査」結果概要

1 回収状況

54 市町村全てから回答有。(回収率 100%)

2 令和7年度の実施率について(別添 資料1-3)

資料1-3は、集団検診及び個別検診のチェックリストの各項目について、全国(R7)と千葉県(R6～R7)の実施率をまとめたものです。

※質問が黄色マーカーになっている項目は、令和7年度の調査から追加された項目

※数値が赤字になっている項目は、全国値の方が高値の項目

＜実施率が低い項目（集団・個別共通項目）＞

問1-2 対象者全員に、個別に受診勧奨を行いましたか

全がん種の平均値 集団検診 R7: 28.6 R6: 31.5

個別検診 R7: 33.7 R6: 34.5

問6-4-3 課題のある検診機関に改善策をフィードバックしましたか。

全がん種の平均値 集団検診 R7: 61.0 R5: 52.6

個別検診 R7: 26.4 R5: 20.0

3 市町村別の実施率について(別添 資料1-4～1-5)

資料1-4は市町村の回答を一覧にしたものであり、資料1-5は市町村別の実施項目数を積み上げグラフで表示したものです。

全ての検診において、市町村により実施状況に顕著な差がみられています。

4 令和7年度「市区町村におけるがん検診チェックリストの使用に関する実態調査」 結果報告書（国立研究開発法人 国立がん研究センターがん対策研究所 検診 研究部検診実施管理研究室）より抜粋

まとめ

本調査では、各市区町村におけるがん検診チェックリストの遵守状況を集団検診・個別検診ともに評価しました。全体として、多くの項目で高い実施率が示されましたが、一部の項目は極端に実施率が低く、課題解決が重要です。集団検診では特に、受診勧奨後の未受診者への再勧奨や、検診機関の質担保（精度管理評価、課題抽出、改善策の検討及びフィードバック）に関する体制整備が遅れていました。

一方、個別検診では、全体的に集団検診と比べて実施率が低く、体制整備上の課題がより多く認められました。現時点で残されたこれらの課題には、現場の努力だけでは解決が困難なものも含まれています。市区町村、都道府県、検診機関、郡市区医師会、都道府県医師会等が連携して課題を共有し、過去の好事例を参考にしながら、体制改善を図ることが求められます。